

### カンパイチャリティキャンペーン開催中!

10/1(火)~11/15(金)

幕張本郷エリア 9 店舗・千葉中央エリア 11 店舗・西千葉・柏各 1 店舗

公益財団法人ちばのWA地域づくり基金は、千葉市内の飲食店との 協働によるカンパイチャリティキャンペーンを開催しています。

期間中、参加店舗が提供する「カンパイチャリティメニュー」を注文すると、 販売額の一部がチャリティ(寄付)として、

当財団の事業指定プログラム第1期に採択された事業に届けられます。 家族や友人との会食に、職場の懇親会に、ぜひご利用ください。

参加店舗・チャリティメニュー・寄付額・寄付先の一覧、対象となる事業の詳細については財団ホームページをご覧ください。



http://www.fecebook.com/kanpai.chibanowa http://chibanowafund.org

公益財団法人ちばのWA地域づくり基金

TEL/FAX: 043-270-4640 E-mail: info@chibanowafund.org

10/26 (土)

## 農業県・千葉の豊かさを実感!おいしい・たのしい・出会いと交流のフェスタ

ちばユニバーサル農業フェスタ 2013 in 四街道

「ユニバーサル農業」とは「みんなで関わる農業」。

さまざまな人々が農業を通じて、出会い、交流し、はたらきあう、新しい農業のかたちです。 農業生産県である千葉県から「農業の持つ可能性」を発信するフェスタに、 ぜひお出かけください。子どもも大人も楽しめる企画がいっぱいです。入場無料・雨天決行。

日時: 10 月 26 日 (土) 9:30~15:00 (雨天時は地下駐車場・屋内で開催)

会場: 四街道市文化センター (四街道市大日 396)

JR 四街道駅北口より徒歩 15 分 千葉内陸バス「千代田団地」行き市役所前下車徒歩 3 分 ちばグリーンバス「京成佐倉駅」又は「田町車庫」行き市役所前下車徒歩3分



#### 販売ブース

四街道のグルメ、採れたて野菜と手作り加工品、ランチ&スイーツ、手作り雑貨・工芸品など 出品多数

#### 体験イベント

地元四街道まち歩き、さつまいも掘り、木工体験、 せんべい焼き体験、天ぷら油回収ロボット実演など

### 相談コーナー

園芸・栽培相談、就農相談、移住・定住相談など

NPO クラブは「浪江焼そば」の模擬店を出します。

### 千葉市でも開催! ちばユニバーサル農業フェスタ in 幕張

日時:11月9日(土)10:30~14:00 会場∷ホテルメイプルイン幕張駐車場 (幕張本郷駅南口より徒歩2分)

農産物・加工品・雑貨販売、相談コーナー、 フリーマーケット、農業体験ツアーなど

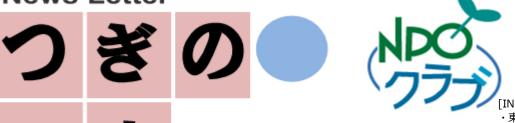
特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ(NPOクラブ) 編集・発行

■Tel:043-303-1688 Fax:043-303-1689 ■〒261-0011 千葉県千葉市美浜区真砂 5-21-12 ■e-mail npo-club@par.odn.ne.jp

■URL www2.odn.ne.jp/npo-club

■団体会員 52 団体・個人会員 97 人

### News Letter



V 0 | 49

- 東日本大震災応援プロジェクト・・1p
- ・特集・・・2、3 p
- 「食」につながる農業を大事にし、 新しいチャレンジを!
- 「カンパイチャリティ」
- & ちばユニバーサル農業フェスタ・・4 p

特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ(NPOクラブ)

## なげよう!東北と千葉

NPO クラブは避難者支援の 2 事業に取り組んでいます

「帰りたくとも帰れない」福島県から千葉県内に 避難している方は3,400名以上(2013.9.30現在)。 東日本大震災から2年半が経った今、「仕事を得て 千葉で暮らそうしと歩み始めている方、「周囲に知り 合いもいない」とこもりがちの方、状況は様々です。

被災者同士、また地域の人たちとあいさつを交わ し、日常のできごとやこれからの不安を語り合える 場を作りたい。福島県民としてのアイデンティティ を大事にしながら、千葉での暮らしに慣れ、楽しみ や生きがいを見つけてほしい。NPO クラブはその ための二つの事業を行っています。

### 1 福島県「ふるさと・きずな維持・再生支援事業」

■被災者支援実態調査

県内自治体の防災関連担当課に、被災者支援の取り組みについてアンケートを実施(7月)

■交流サロンの運営支援

被災者を主な対象にした「交流サロン」の運営者などが集まる情報交換会を開催(月1回)

■被災地・被災者の状況を知る学習会の開催

県内で被災者の支援活動を行っている団体の活動内容を共有する学習会を開催

■情報紙「縁 joy (えんじょい)」の編集発行

県内の「交流サロン」マップやイベント情報を掲載した情報紙を被災者に送付(毎月発行)

- ■交流イベントの開催
  - ・10/26(土)「ちばユニバーサル農業フェスタ in 四街道」で福島県の名産品・「浪江焼きそば」 などを販売
  - ・11/16(土)「交流イベント『縁 joy・東北』in マザー牧場」を開催
- ■千葉を楽しむバスツアーの実施

千葉を第二の故郷と感じてもらえるような日帰り旅行を企画実施 10/17(木)「佐原の町並みを楽しむ」バス運行

### 2 浪江町復興支援員サポート業務

2012 年 8 月から NPO クラブ事務所内に「浪江町復興支援員千葉県駐在」が置かれています。3 名の浪 江町職員が県内に避難している浪江町民の支援を行い、NPO クラブがその活動をサポートしています。



## 「食」につながる農業を大事にし、新しいチャレンジを!

「むら」の中に、後継者がいる家は数えるほど…全国、どの地域でも後継者不足が深刻化しています。全国第3位の農産県である千葉も例外でありません。 農業を大事にした新しいチャレンジが、地域の活性化につながっています。

### 高野賢司さん NPO 法人 Love Farm 理事長

会社員だった高野さん、東日本大震災の時に「自分に

何ができるか」を考え、同僚の内田 さんと一緒に、農産物の物流を担う 株式会社 Love Farm と NPO 法人 Love Farm を立ち上げました。

### なぜ、「Love Farm」の 事業を始めたのか?

東日本大震災の時に、家族でテレビを見ながら「政治が悪い」と 批判的なことを言っていたら、奥さまから「あなたは批判するだけで何もしていないじゃない」と指摘されたことが事業立ち上げの発端でした。妻や子どもに、暮らし方、生き方を伝えたい、そのためにできることは何かと考え、農業にたどり着いたとのこと。生産

者、販売者、消費者それぞれが、お互いに我がままを 言い合っているけでは農業はだめになる。関わりを持 ち合い、自分事にしていくことが農業を支えていくこ とにつながるのではないかと、仕組みづくりを進めて きました。

### 新しい物流を作る

新規就農者が作物を出荷しようとしても、JA など既存の大きな物流機関では、関係性がないとほとんど扱ってもらえない状況です。日本では、農業は土地を中心とした世襲の仕組みで守られてきたとも言えます。農業 60 年生と 1 年生が同じ土俵に乗ることは難しいのです。また、地域に八百屋がなくなり、スーパーで野菜を買うことが多くなっています。かつては、野菜の旬、食べ方を通して、売り手と買い手のつながりができていました。今は、そのつながりがなくなりつつあります。

「Love Farm」は、有機・無農薬栽培の野菜を中心とした物流を作ることで、農業を支えることを目指して 2012 年 6 月に立ち上げました。株式会社 Love Farm が物流を担い、NPO 法人 Love Farm は、有機・

無農薬栽培の野菜の 良さや新しい物流の 仕組み、循環型社会 について消費者に周 知することを目的に 活動しています。



事務所を兼ねた物流センター

### 生産者と消費者をつなぐ

「Love Farm」に登録している生産農家は130名あまり、多くは成田市の農家です。立ち上げた当初はWebでの受注を中心としていましたが、現在は、千葉市で開催される「アースデイマーケット」や西千葉駅前の「西千葉マロニエ商店街」など出店販売の売り上

げも大きくなっています。

出店の時を中心にボランティアスタッフが協力してくれています。商店街では地域の活性化に野菜市を活用したいというところもあり、野菜をきっかけとした地域交流が少しずつ根付き始めています。出店先をはじめ地域の協力者の輪が広がってきていることが、うれしいとのこと。



横浜市青葉区の住宅地で出店販売をしていた際に、通りかかった郵便局長さんから、ぜひ、郵便局内での野菜販売をと声がかかり、今年の9月から横浜市内の郵便局内に出店することになりました。地域の活性化、地域貢献への取組みを考えていた郵便局と「Love Farm」の目的が重なったと言えます。

出店先では、「昔の野菜の味がする。土の香りがする野菜」とうれしい言葉をもらうことも。生産者と消費者をつなぐ役割を「Love Farm」が果たしています。

株式会社 Love Farm & NPO 法人 Love Farm 〒286-0116

千葉県成田市三里塚御料 1-221-103 TEL/FAX 0476-33-4758

E-mail mr.k.takano@lovefarm.co.jp URL http://lovefarm-npo.tumblr.com/

# 太田裕輔さん ゆーちゃんふぁーむ 代表

生まれも育ちも緑区越智町で、神田外語大学卒業後に "農家1代目"となった太田さんは25歳。就農3年目の現 在、農薬や化学肥料を使わず、地域資源を活用して 循環させている畑にはニワトリ60羽がのんび り歩き回っています。

### 自立をめざして就農

中学の時からバンド活動を始めた太田さんは、アメリカのバンドに片っ端からメールを出して、大学2年の時には渡米してレコーディングしたほどの行動派。「環境系の歌詞を歌っているだけでは能がない」と、今度は食と農に挑戦することに。大学の後半はニュージーランドやオーストラリアで農業を、南房総市の「ガンコ山ツリーハウスヴィレッジ」

で林業を、ひたすら体験し修行する日々でした。一度 だけ参加した大手企業の就職説明会ではその雰囲気に カルチャーショックを受け、就農する決心をしたそう です。

資金として千葉市の「青年就農給付金(経営開始型)」 (年額 150 万×5 年)を得、越智町に借りた 5 反 6 畝 (=5,600 ㎡)の畑で様々な雑穀、次世代に種採りで きる伝統品種の野菜、平飼いの卵などをつくっていま す。給付金が終了する 4 年後までに出荷先を増やし、 自立経営をめざしています。

### 若者が新規就農できる仕組みづくり

周りには高齢化で耕作放棄されそうな農地や空き家も目立つようになりました。一人で耕せる農地には限りがあるので、農地や空き家を共同で借りて、農家出身ではない人が新規就農できる仕組みをつくれないだろうか?自分がかつて体験したように、日本の農業を体験したい国内外のボランティアスタッフをインターネットで募ればいい。「意欲のある人たちを引き寄せる面白いプランをつくりたい」と太田さんは考えています。

そんな夢につながる試みのひとつが、5 年前から始めた「土気サタデーマーケット (サタマ)」。2 か月に1回、JR 土気駅の南にあるあすみが丘ふれあいの広場公園で開催する青空市です。農、アート、スポーツなど「基本手作り」の販売ブースや発表が20~30 団体に増え、地域にも浸透しています。太田さんは毎回、採れたての野菜と卵、簡単野菜料理などを出展。

次回 10 月 19 日(土)の「ハロウィンマーケット」は 出展者の仮装もお楽しみのひとつです。 この 10 月には、サタマの中心メンバーでNPO法人「土気NGO」を立ち上げ予定。「広く、根深く、めざすは土気独立!」を合い言葉に、わくわくする事業が始まりそうです。

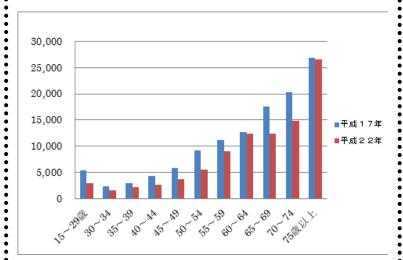


昨年12月のサタデーマーケットの様子

ゆーちゃんふぁーむ 千葉市緑区越智町 TEL 090-9322-2115

E-mail yusuke.agriculture@gmai.com https://ja-jp.facebook.com/yusukeorga nicfarm

### [千葉県の農業就業人口 (販売農家) 推移]



総農家数は 7 万 3,730 戸で、平成 17 年に比べ 10.1%減少、うち販売農家数は,5 万 4,470 戸で、平成 17 年に比べ 14.5%減少しました。また,販売農家の農業就業人口は 9 万 3,909 人で、平成 17 年に比べ 20.8%減少しました。年齢別では、60 歳以上が全体の 70.4%を占めています。(千葉県ホームページから)

農業について生産者と消費者がともに考えることが大切です。